

会議録			
審議会等名	平成 29 年度 第 2 回三条市学校給食運営委員会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 30 年 2 月 22 日(木) 午後2時～3時 45 分		
開催場所	三条市役所 栄庁舎 3 階 大会議室	傍聴者の有無	有
出席者	<p>委員 16 人</p> <p>小林委員(裏館小学校長) 高橋委員(栄北小学校長) 高松委員(大島小学校長)</p> <p>星委員(第四中学校長) 八幡委員(本成寺中学校長) 八木委員(下田中学校長)</p> <p>野崎委員(一ノ木戸小 PTA) 高橋委員(裏館小 PTA) 大桃委員(月岡小 PTA)</p> <p>菊地委員(大面小 PTA) 坂井委員(飯田小 PTA) 高野委員(笹岡小 PTA)</p> <p>内山委員(第一中 PTA) 佐藤委員(第三中 PTA) 捧委員(三条市監査委員)</p> <p>高德委員(三条地域振興局)</p> <p>事務局 20 人</p> <p>長谷川教育長 栗山教育部長 遠藤教育総務課長</p> <p>高橋小中一貫教育推進課長 島岡一ノ木戸小学校長 志賀嵐南小学校長</p> <p>坂井共同調理場長 大谷教育総務課庶務係長 前田教育総務課主任</p> <p>澤口一般任用技師 沖田栄養教諭(一ノ木戸小) 山本栄養教諭(嵐南小)</p> <p>小川栄養教諭(井栗) 吉田栄養教諭(嵐南)</p> <p>長谷川栄養主査(裏館) 和田臨時栄養士(栄) 関谷栄養教諭(下田)</p> <p>丸山職員(教育総務課) 外山職員(教育総務課) 風間臨時職員(教育総務課)</p>		
報告・議題等	<p>報 告 (1) 平成 29 年度(第1・2学期)三条市学校給食調理場給食費会計収入支出状況について</p> <p>議 題 (1) 平成 30 年度三条市学校給食調理場給食費会計収入支出予算(案)の承認について</p> <p>その他 (1) 学校給食残量調査結果の報告について</p> <p>(2) 平成 30 年度からの学校給食の変更点について</p> <p>(3) 学校給食調理等業務の民間委託について</p>		
発言内容等	<p>報告(1) 平成 29 年度(第1・2学期)三条市学校給食調理場給食費会計収入支出状況について</p> <p>捧委員</p> <p>平成 29 年度1・2学期分の三条市学校給食調理場給食費の会計監査を2月7日に行った結果、収入支出の状況報告のとおり関係諸帳簿、預金通帳及び証票類の数値は適正であり確実に執行されていたことを報告します。</p> <p>質疑に入るが質疑なく、質疑終結</p> <p>議題(1) 平成 30 年度三条市学校給食調理場給食費会計収入支出予算(案)の承認について</p> <p>質疑に入るが質疑なく、拍手で承認</p>		

	<p>その他(1) 学校給食残量調査結果の報告について</p>
星委員	<p>小学校も中学校も残食率に大きな差があるということですが、要因の分析とそれに対する対策についてはどのようになっていますか。</p>
坂井場長	<p>小学校については、学校ごとに食の細い学年があることや、野菜嫌いな児童が多いことが要因として考えられます。</p> <p>飯田小学校の牛乳残食率 29.7%についてですが、この期間のうち2日間さつまいもの調理体験があり、給食前に満腹になる児童が多く、牛乳まで飲みきることができなかったことが要因と考えております。中学校については、調査期間がテスト期間中であり、夜遅くまで勉強し、食欲がわからない生徒が多かったことが要因にあげられます。第一中学校の牛乳 23.5%については、無理して飲ませる指導をしていないことも要因の一つと考えています。今後は、栄養教諭や給食主任と協力し、残食率が減るように努めていきたいと思っています。</p>
星委員	<p>特定の5日間での調査になるので、その期間によって違いがある。自分たちの学校ではどのくらい残量があるのかをしっかりと把握し、今後の指導に取り組んでいきたいと思います。</p>
小林会長	<p>学校で指導が必要な部分、考えなければいけない部分につきましては、それぞれの学校で対応していくという方向で進めたいと思います。</p>
	<p>その他(2) 平成 30 年度からの学校給食の変更点について</p>
野崎委員	<p>三条産小麦について、絶対量が足りないのではないかと思います。私は農家で三条産小麦を栽培しています。栄地区1名、三条地区1名で栽培していますが、合計しても3トンから4トンくらいしか収穫量がないと記憶しています。今現在使用している業者ではほぼ消費されている状況です。給食に使用する分が確保できるのかが疑問に思っています。米粉であれば三条産で使用可能なのではないのでしょうか。</p> <p>また、米はずっとコシヒカリを使用していますが、様々な品種があることを子どもたちに知ってもらうことも必要なのではないのでしょうか。他の品種と食べ比べをしてもらってアンケートをとる形をとってもいいのではないのでしょうか。コシヒカリとの値段差もありますし、予算の削減等にもつながるのではないかと思います。</p> <p>地場の農産物を活用した和食ということで、大変良いと思っております。メニューに麦飯が入っていますが、子どもたちには余り評判が良くありません。入っている麦自体、三条産ではないと思っておりますので、その点も改善していただけるとありがたいと思っております。</p>
遠藤課長	<p>まず、一点目の三条産の小麦を使用した麺、パンについて、絶対量が足りないのではないかというお話ですが、必要な全量を三条産の小麦で賄うということには至っておりません。不足する部分につきましては、国内産の小麦を合わせて、あくまでも三条産の小麦粉を使ったパン、麺という形で考えているところでございます。</p> <p>コシヒカリ以外の米の活用という御提案は参考にさせていただきたいと思っております。今現在は、三条産の有機栽培米と特別栽培米を使用して、安全でおいしいものを子どもたちに提供したいと考えているところでございます。</p>
前田主任	<p>いろいろと御意見や考えがあると思いますが、麦は手軽に食物繊維をとるのに大変良い食材の一つです。なるべく気にならないように、カレーの日やハヤシライスの日、どんぶりの日に麦ご飯の献立にさせていただいているところです。食べにくいなどの意見が多くなるのであれば、今後の活用方法について考えていかなければならないと思っております。今現在は、今後も使用していく形で考えています。</p>
野崎委員	<p>皆さんいろいろ考えていただき感謝しています。今後も子どもたちのために安全でおいしい給</p>

	食を提供してもらえようお願いします。
高松委員	大島小学校の子どもたちは、給食をととても楽しみにしておりほぼ給食を残しません。牛乳も残食率ゼロの状況です。そのような学校で、なぜドリンクタイムの検証をされるのでしょうか。小学校の場合ですと、飯田小学校の29.7%という数値が全体の数値を上げているのではないかと思います。給食が終わった後の牛乳だと、やはり満腹な児童が多く、このような数値になると思っています。この高い残食率の学校も入れて、全体の残食率が高いと言うのは、違う話だと思っています。
星委員	ドリンクタイムのそもそもの根拠が、牛乳残量が増加傾向にあるということですが、残量調査結果報告書7ページのデータを見ると学校の格差がかなりある。今年度から調査方法を変えたということでしたが、調査方法を変更したことが数値を上げている要因になっているのではないかと思います。平成27年度から平成29年度では、調査方法はどのように違いがあるのかを教えてください。
遠藤課長	これまでは、子どもたちに事前に知らせた中で牛乳の残量調査を実施していました。それでは正確な数字がとれないのではないかと話もございまして、平成29年度からは、そこを見直し、子どもたちには、事前に伝えることなく残量調査を実施させていただきました。それによる影響が多少あると考えています。ただ、平成26年度の牛乳の残食率は、小学校1.6%、中学校3.3%ということで、平成26年度から平成28年度の3年をみてもやはり増加傾向にあると捉えています。今回のドリンクタイムの見直しは、市全体としての底上げを図っていききたいというものでございます。大島小学校が残食率が少ないことも承知していますが、三条市全体でみていききたいということで御理解いただきたいと思っております。
高橋副会長	平成26年度のデータはドリンクタイムを実施しておらず、比較するデータとしては、正確ではないのではないかと。
遠藤課長	平成26年度から平成29年度にかけては、調査方法の見直しがあった時期でした。影響は多少あるかもしれませんが、全体として数字を見たときにやはり増加傾向にあるということで捉えております。
星委員	具体的に調査方法がどう違うのかを聞きたい。根本になっている牛乳残量が増加傾向にあると本当に言えるのか。調査方法が違うので理解できない。そこを詳しく教えてください。
坂井場長	平成27年度につきましては、11月の中旬の2日間、市内同一献立で実施しました。対象は小学校3年生、4年生、中学1年生、2年生となります。今年度の調査につきましては、5日間実施し、各調理場で献立も違っております。
星委員	平成27年度は、事前申告をして調査したということか。
坂井場長	そうです。
星委員	平成29年度は、事前申告せず期間も5日間と長い。以前は、先生方や子どもたちも頑張っ飲んでいただけたのかもしれない。期間や方法が違うのに本当に残量が増加していると言えるのか。
遠藤課長	調査方法やドリンクタイムの有無に違いはあります。残食率は、各学校の平均で算出している中で、基本的には増加傾向にあると考えています。
星委員	ここが根本的な一番の根拠なので、ここをきちんとしないと今後しっかりした検証ができない。牛乳の残量は増加傾向にあるということが事実であることを明確に示してほしい。今後の審議に

	も影響してくると考えている。平成 26 年度はドリンクタイムを実施しておらず、この年度の方が残量が低い。ドリンクタイムを始めたから残量が多くなってしまったのではないか。
遠藤課長	平成 26 年度から平成 27 年度にかけては、ドリンクタイムを導入したことによって牛乳の残量が増えているということは、はっきりしていると思います。平成 27 年度から平成 28 年度にかけては、牛乳の残量は増えていると明確に言えないかも知れませんが、ドリンクタイム導入後に牛乳の残量が増えているということは間違いのない事実かと思っております。今回見直しをすることによって少しでも牛乳を飲んでもらえるような形にできるのではないかと考えています。
小林会長	数字だけ見ると確かに牛乳の残量は増えているように感じる。しかし、調査方法の違いや実施期間の違いなどがあり、本当に残量が増えているとは言えないのではないか。
遠藤課長	ドリンクタイム導入後に残量が増えていることに間違いはありません。今回見直しをすることで少しでも牛乳を飲んでもらえるような形にできるのではないかと考えています。
高橋委員	パンの日が年間3回予定されているが、そのときのドリンクタイムはどうなるのか。ご飯と牛乳は合わないからドリンクタイムで別に牛乳を飲んでいるが、パンとは合うと思うので一緒になるのでしょうか。三条産小麦を使ったラーメンとパンですが、小麦粉アレルギーの対応は可能なのでしょうか。三条産と県内産小麦を使用して作る業者は、アレルギー対応が可能なのでしょうか。
遠藤課長	基本的にパンを食べながら牛乳を飲むことを考えています。
前田主任	アレルギー対応については、同じ業者での対応は難しいと聞いています。パンには、小麦を一切使っていない商品が幾つかあるようなので、その中で良い物を出してあげたいと思っております。麺については、今のところ小麦を全く使っていない商品を見つけれられていない状態です。どうしても見つからない場合は、主食だけ家から持ってきてもらう対応を考えていますが、年に数回しかない機会なので、アレルギーのある生徒についても安全第一を考えながら、できるだけ同じようにしたいと思っております。
高橋委員	補足になりますが、三条小麦パン、三条小麦ラーメンというと、どうしても三条産小麦 100%と思われると思います。後から実はそうじゃなかったとなるとそれもまた問題だと思うので、そのあたりの告知の仕方も御検討いただきたいと思っております。
高松委員	ドリンクタイムを実施するに当たっては、保護者の皆さんにきちんと説明していくことがとても大事だと考えています。子どもたちにとって給食は非常に大きな関心事であり、学校に行きたい、行きたくないという気持ちにも大変関わる部分ですので、保護者の方がしっかり理解していただくことが大事だと思います。 資料には、朝食がおろそかな家庭が多い中と書かれてありますが、どの学校でも朝ごはんの摂取状況を確認し、生活リズムの改善に取り組んでいると思います。大島小学校は、今年度も昨年度も朝食を食べていない児童はいません。きちんと朝食を食べている児童しかいない中で、ドリンクタイムの時間帯変更は保護者の納得を得られるのか。保護者が納得できるようなきちんとしたデータが欲しい。
遠藤課長	資料のおろそかという表現につきましては、朝食を食べるにしても菓子パン1つ食べたような児童生徒も中にはいると聞いているのでこのような表現になりました。 平成24年度の数値ですが、小学校で毎日朝食を食べる児童の割合が 92.7%、中学校で毎日朝食を食べる生徒の割合が 95.3%です。
高松委員	学校としては、保護者にきちんと説明をして納得していただいた状況で進めていかなければ何かと心配になります。新しいデータを各学校に送付してほしいと思っております。

遠藤課長	後ほど新しいデータを各学校に送付させていただきたいと思います。
長谷川教育長	<p>ドリンクタイムにつきましていろいろと御意見をいただきましたが、三条市の学校給食は、平成20年から完全米飯給食に取り組んでまいりました。その意味合いは地産地消の観点から地場産品を使った一汁三菜の給食をしっかりと食べながら、勉強や部活に頑張してほしいという思いの中で取り組んできたところであります。</p> <p>そういった中で、牛乳については、「ご飯を主食とした和食には合わない。」「家庭の中でもご飯と一緒に牛乳は飲まない。」という声があがり、学校給食から牛乳を外し、摂取栄養も含めいろいろな観点から検証をすることを平成26年度に行わせていただきました。</p> <p>しかしながら、結果としてカルシウムの部分が、摂取基準上の数値を満たしきれないということとなり、これまでの食習慣をもう一度見直し、食育ということを基本に立ち返って考えていこうということから、牛乳を給食から少しずらしたドリンクタイムに取り組んできたところでございます。</p> <p>今回の残量調査は期間や方法等いろいろありましたが、ドリンクタイムに取り組んだ期間は給食の残量全体が減っております。これは、子どもたちは、給食の時間に給食をしっかりと食べる、そして牛乳は後でしっかりと飲む、こういった中で残量全体が減ってきているものと考えております。大事なことは、子どもたちが給食をしっかりと全部食べること、このことが基本になればならないと考えていますが、学校ごとの牛乳の残量のみならず目を向けるのではなく食育という視点も考えた中でドリンクタイムについて改めて御理解をさせていただきたいと思っています。そのために保護者や委員の皆様への説明資料を作成して進めてまいりたいと思います。</p>
	<p>その他(3) 学校給食調理等業務の民間委託について</p> <p>質疑に入るが質疑なく、質疑終結</p>
小林会長	<p>皆様の方ではかに何かございませんでしょうか。何か御意見等がありましたら御発言いただきたいと思います。</p>
星委員	<p>第1回目にいただいた資料の中に三条市給食運営委員会規則というものがありませんでした。その第6条に運営委員会委員の2分の1の出席がないと成立しないとありますが、会議は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところよる。とあるが、今日は特に議決したということはないと理解していいのでしょうか。</p>
遠藤課長	<p>その他の部分については議題に入っていないので、運営委員会でいただいた御意見の中で参考にさせていただき、教育委員会で検討していきたいと考えています。</p>
小林会長	<p>しばらくして発言がありませんので、これで「平成29年度第2回三条市学校給食運営委員会」の議長を退任させていただきます。</p> <p>皆様の御協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>
坂井場長	<p>閉会の挨拶を高橋副会長からお願いします。</p>
高橋副会長	<p>本日は、御多用の中ありがとうございました。先日、食育の講座の中で、私たちの体は日々入れ変わっている。細胞は、私たちが食べたもので変わる。食べ物が変われば体も変わるという話がありました。その中で、給食も大事な部分を請け負っていることを改めて感じました。ここで出た意見が学校給食の現場とつながりながらより良い運営委員会が開催できたらいいなと思っています。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>